

第5学年 国語科 学習指導案

第5学年2組 25名
指導者 外地 ゆめ佳

分科会テーマ

授業づくりの基本の流れ・話し合い活動の指導

1 単元名 「想像力のスイッチを入れよう」 光村図書 5年

2 単元の目標

- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。 【知(1)カ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができます。 【思C(1)オ】
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができます。 【思C(1)カ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えをまとめたり、話し合ったりしようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 【知(1)カ】	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 【C(1)オ】 ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【C(1)カ】	① 文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えをまとめたり、話し合ったりしようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校新学習指導要領解説「国語編」(平成29年3月告示)

【知識及び技能】

(1) カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、話や文章の種類などの特徴について理解すること。

【思考力、判断力、表現力等】C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

を受けて設定した。

本単元では、説明文「想像力のスイッチを入れよう」を用いて、文章の構成を正しく捉えること、事例と筆者の考えを結び付けながら理解すること、それらを基に自分の考えをまとめ、共有する力を高めることをねらいとしている。

(2) 教材観

児童は、情報メディアに多くふれており、その中で普段から情報の取捨選択を多くしている。本教材は、情報に多く触れている児童たちにとって身近な具体例が多く、主体的に考えることができる教材である。

筆者は主張の中で比喩を使用し、直接的な表現をしていない。なぜ比喩表現を使用したのか、筆者はどういう意図だったのか等を、考えることができる教材である。筆者の考えに対して、自分の考えをもち、その考えを伝え合い、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を話し合うことで、さらに自分の考えを深めることができる教材である。

5 児童の実態

本学級は、文章から必要な情報を読み取ることができる児童が多くいる。「言葉の意味が分かること」では、筆者の考えを正しく読み取り、要旨をまとめることを学習し、実際に要旨をまとめられた児童も多く見られた。しかし、日々の学習では、事実を基に自分の考えを深め、表現するのを苦手としている児童が多い。

また、話し合いで、他者の意見に対して質問したり、反論したりと活発に話し合いができる児童が見られる。一方、話し合いに参加しようとしない児童や、自分の意見を言ってすぐやめるような児童である。十分に意見を出し合わないまま、形式的に話し合い活動を終えてしまう傾向がある。

このような実態を踏まえ、本单元を通して、話し合い活動の中で、読み取った事柄や自己の考えをすすんで伝えたり、仲間の考え方や意見を認めながら、自分の考えをより良いものにしようとしたりする力を育んでいきたい。

6 研究主題に迫るために

(1) グループのテーマ

①授業づくりの基本的な流れ

一斉授業において、特定の児童ばかりが挙手し、その他の児童が傍観してしまう学級がある。学習課題に向き合える学習規律や、発言しやすい人間関係づくりを考える。発問後、すぐ指名するのではなく、考える時間を設け、全児童がじっくりと考えられるようにする。また、意図的指名を行い、できるだけ多くの児童の発言や考えによって、学習が進められるようにする。

②話し合いの指導

グループ活動が形式的なものになってしまい、協働的な学びの場としての効果が見られないことがある。また、話し合い活動では、友達任せになってしまふ児童の姿が見られる等、自ら学ぼうとする主体的な姿を引き出すまでに至っていないことが指導上の課題である。そのため、単元の学習過程において、活動内容を明確にして、協働的な学習活動の時間を十分に設定する。

また、学習課題に対し、指示待ちになる児童が多い実態がある。児童が自分で考えるだけでなく、友達に相談したり、質問したりしながら学習を進めることができる環境を整える。

(2) 授業者の課題

①指導の際の言葉選び

指示が通りにくく、児童が分かりにくい時がある。授業前に発問を精査し、分かりやすく簡潔に伝わるようにする。

②タイムマネジメント

時間配分がうまくできない。授業の進み具合によって活動時間を調整し、授業終了時刻が過ぎてしまわないよう、少し余裕をもって終われるような時間配分にする。

(3) 指導における手立て

①短時間の話し合い活動

話し合いをするうえで、自分の考えをもつことは大切である。自分の中で考えを整理するために隣の人と短時間の話し合いを行ったあと、グループ活動をする。

②話型カードの作成

自分の意見を表現するために自分の机の上に「賛成」「反対」「質問」などの意見カードを置いておく。そうすることで自分の意見を言いにくい子でもカードで自分の意見を出せるようにする。

③役割を明確化

役割分担をすることでそれぞれの役割意識で話し合いに参加できるようにする。

7 単元の指導計画と評価計画(全6時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準(方法)
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 「想像力のスイッチ」とはどういうことか予想し、話し合う。 「想像力のスイッチを入れよう」を読み、情報との関わりの経験に触れながら、最初の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文に興味をもつために「想像力のスイッチ」がどういうものかを話し合い関心を高めさせる。 今まで自分が情報とどう関わっていたか考えるために、情報との関わり方について問題意識を持たせる。 	思②(観察・ノート) 主①(観察・ノート)
二	2	<ul style="list-style-type: none"> 文章のまとめ毎に、筆者が伝えたいことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章のまとめを分かりやすくするために、意味段落ごとの内容や話つながりをつかませる。 	知①(観察・ノート)
	3	<ul style="list-style-type: none"> 事例とその事例に対する筆者の意見を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 繋がりを理解するために、接続語や、段落の内容についてまとめながら、事例と筆者の意見の関係を話し合わせる。 	知①(観察・ノート)
	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が考える「想像力のスイッチを入れる」とはどういうことか、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えた後に、グループで話し合うように指導する。 本文を基にして、考えを整理するように指導する。 	思①(観察・共有ソフト) 主①(観察・共有ソフト)
	5	<ul style="list-style-type: none"> メディアとの関わりについての自分の考えを文章に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの振り返りながら、筆者の主張について、これから的生活にどのように生かしていくか考えさせる。 	思①(観察・ノート)
三	6	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて第5時にまとめた考えを読み合い、感想を伝え合う。 共有を振り返り、取り入れたい友達の考えをまとめる。 単元を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな観点で読めばいいか分かるように共通点、相違点を見つけ伝えられるようにする。 今後メディアと関わる際に取り入れたい友達の考えについてまとめる。 	思②(観察・ノート) 主①(観察・ノート)

8 本時(4/6時間目)

(1) 本時のねらい

- ・文章を読んで理解したことに基づき、筆者が考える「想像力のスイッチを入れる」とはどういうことなのか、考え、話し合っている。
【思考力・判断力・表現力等】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えをまとめたり、話し合ったりしようとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の流れ

	学習活動(・児童の反応)	◇指導上の留意点 ☆評価(方法)
導入 3分	<p>1 学習活動とめあてを確認する。</p> <p style="text-align: center;">「想像力のスイッチを入れる」とはどういうことなのか話し合おう。</p>	<p>◇ 文章中の言葉を根拠として考えることを強調して伝える。</p>
展開 37分	<p>2 筆者の考える「想像力のスイッチ」とは何か、考える。</p> <p>(1)教科書の「想像力のスイッチを入れよう」を読む。</p> <p>(2)個人で筆者の考える「想像力のスイッチ」を読み取る。</p> <p>(3)グループで確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『まだわからないよね。』 ・『事実かな、印象かな。』 ・『他の見方もないかな。』 ・『何がかくれているかな。』 <p>3 読者が「想像力のスイッチを入れる」とはどういうことか、話し合う。</p> <p>(1)個人で考えを整理し共有ソフトにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いこみを防ぐために、メディアの側も、情報を受け取る側もそれぞれに努力をすること。 ・あたえられた小さいまどから小さい景色をながめるのではなく、自分の想像力でかべを破り、大きな景色をながめて判断すること。 <p>(2)グループで考えを伝え合い、考えをまとめる。</p> <p>(3)考えを共有ソフトにまとめる。</p> <p>(4)全体で共有する。</p>	<p>◇ 「想像力のスイッチ」とは何か、本文から探すことを目的として、個人で黙読するように伝える。</p> <p>◇ いつでも手順を確認できるよう、流れを黒板に掲示する。</p> <p>◇ 理由を明確にしながら考えを記述するように伝える。</p> <p>◇ 話し合いにおいて、個人の考えを選ぶのではなく、グループとしての考えを整理するように指導する。</p> <p>◇ 話し合いが深まらないグループに問い合わせたり、助言したりするなど、適宜支援する。</p> <p>☆ 文章を読んで理解したことに基づき、筆者が考える「想像力のスイッチを入れる」とはどういうことなのか考え、話し合っている。 (観察・ノート)</p> <p>☆ 文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えをまとめたり、話し合ったりしようとしている。 (観察・ノート)</p>
終末 5分	4 振り返りをする。	◇ めあてに対しての振り返りだけでなく、学び方やグループでの話合いについても振り返るように指導する。

「想像力のスイッチを入れよう」

(4) 筆者が考える

「想像力のスイッチを入れる」とはどういうことなのか、叙述を基にして考えよう。

【グループで話し合う】

一 筆者の考える

- ・「想像力のスイッチ」とは何か探す。
- ・『まだ分からぬよね。』
- ・『事実かな、印象かな』
- ・『ほかの見方もないかな。』
- ・『何がかくれているかな。』

二 筆者が考える

- 「想像力のスイッチを入れる」「
とは、どういうことか。

(手順)

- ① 個人で考え方を整理して、
共有ソフトにまとめる。
- ② グループで考え方を伝え合い、
考え方をまとめる。
- ③ もう一度考え方を
共有ソフトにまとめる。
- ④ 全体で共有する。

(3)

(3) 板書計画

④ 思いこみを防ぐために、メディアの側も、
情報を受け取る側もそれぞれに努力をすること。
あたえられた小さいまどから小さい景色を
ながめるのではなく、自分の想像力でかべを破り、
大きな景色をながめて判断すること。